

# スガノ農機 石村鉄工

# 業務提携



## 府県で石村製品をスガノが販売

スガノ農機(株)と石村鉄工は3月5日、渡邊信夫、石村聡英両社長出席の下、記者会見を開き、販売に関する業務提携を発表した。今春からスガノが府県で石村ブランドの製品を販売していくことになる。取扱機種は適応馬力が20馬力クラスを中心とした「チゼル・プラウ」「ヘビークアルチ」「ブレイク・ハロー」「スプリング・ハロー」「ケンブリッジ・ローラー」5アイテム12型式だが、それ以外にも要望があれば随時流通させていくことにしている。

北海道出身メーカーのスガノは大型機を主力とする一方で、府県やハウス向けは手薄と言わざるを得なかった。石村も北海道美瑛町に本社を構える会社ではあるものの、20馬力対応のミニ・シリーズを開発するなどして府県の販売割合を年々上げていた。しかし、昨今の働き方改革の影響でこれまでこうした小型製品を運搬していた業者が1台や2台単位では受け入れてくれなくなり、閉口していたところで石村からスガノへの働きかけがあった。両社は共に土を扱う作業機メーカーであり、土の力を引き出そうとする同志でもある。大型から小型まで土関係をすき

間なくフォローしていきたいスガノと、府県で拡販していきたい石村の思いが合致し、今回の提携に至った。輸送では、スガノが茨城の工場から北海道に出荷したその帰り便を利用するめどが立っている。

石村は「脱ロータリー」をスローガンに掲げる。動力を必要としない非駆動型製品に特化しており、ロータリーハローなどの駆動型に比べ燃料代や作業速度で優位性がある。作業速度については、一部大型製品を除き、時速8〜12kmを実現する。非駆動型の爪には固定式とバナネ式とがあるが、同社では後者を採用している。バナネ式は、トラクターで引かれる際、爪が土中で振動しながら作用するため、破碎効果が高く、ロータリーハローに見られる耕盤層を形成する恐れがない。固定式では一般的なシエアピンもなく、作業が寸断されずにスムーズに行なえる。こうした利点をスガノが関与する実演会でアピールしていくことにしている。本誌では水田への畑作技術体系の導入を提案している。この取り組みが府県の水田を変革するターニングポイントになることを願ってやまない。(永井佳史)